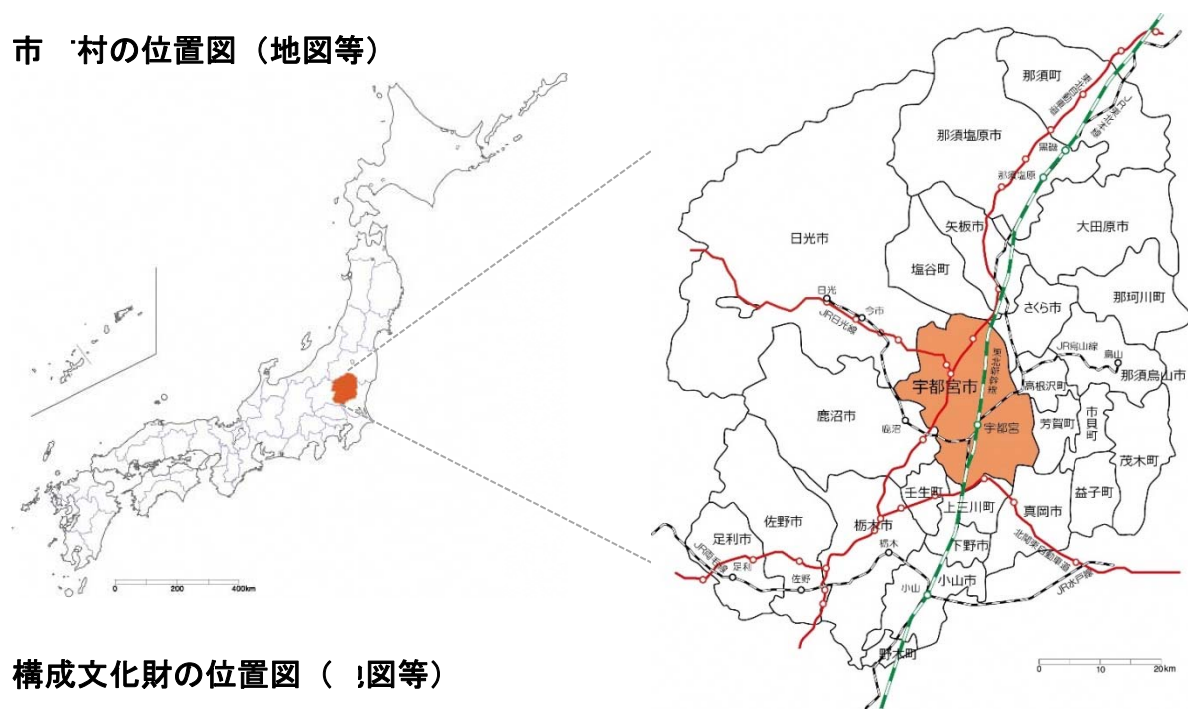
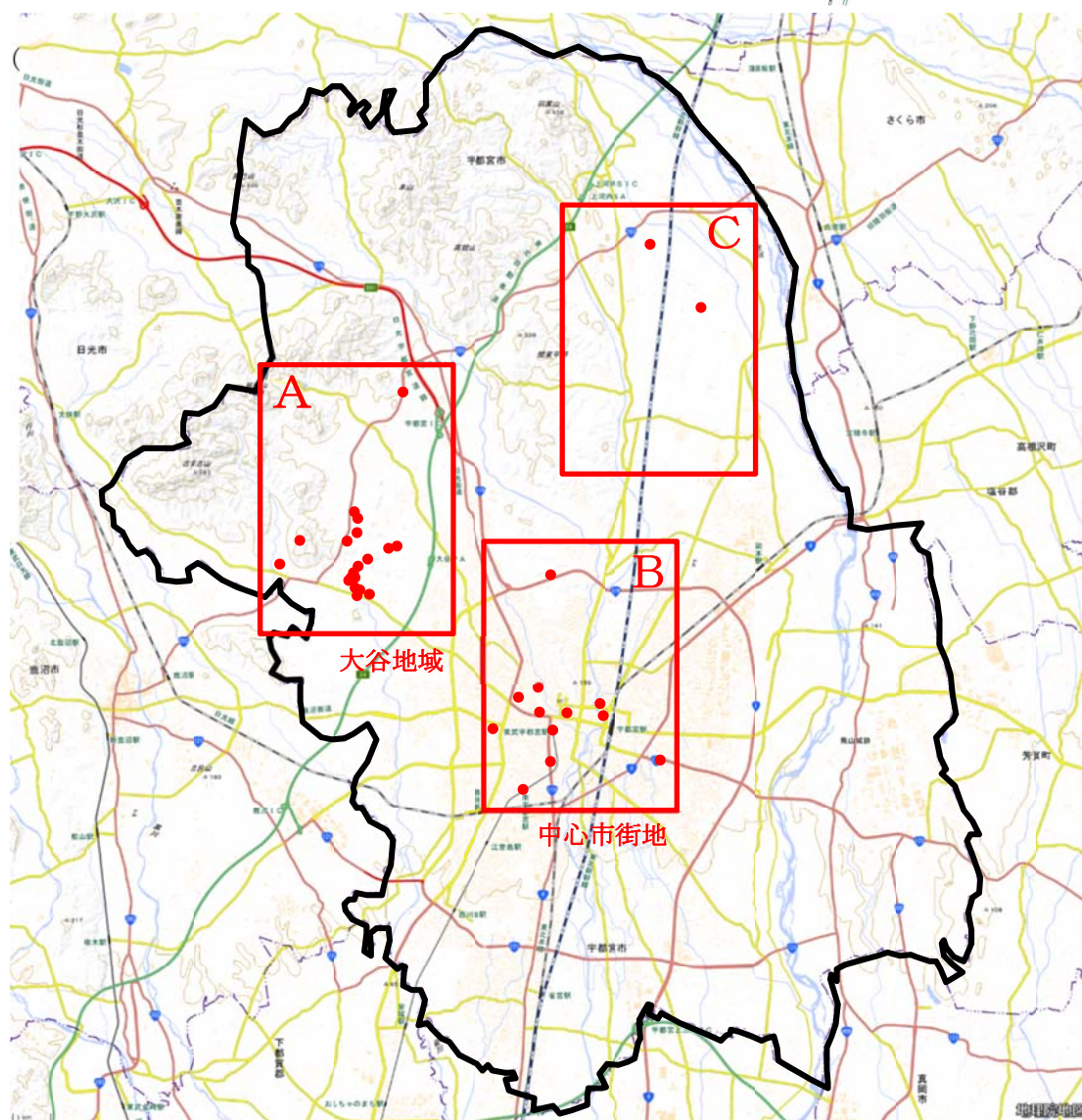


① 申請者	宇都宮市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E				
③ タイトル							
地下迷宮の秘密を探る旅 ～大谷石文化が息づくまち宇都宮～							
④ ストーリーの概要（200字程度）							
<p>冷気が張りつめるこの空間は一体、どこまで続き、降りていくのだろう。壁がせり立つ巨大な空間には、柱が整然と並び、灯された明かりと柱の影が幾重にも続く。柱と柱の間を曲がると、同じ光景がまた目前に広がり、しだいに方向感覚が失われていく。</p> <p>江戸時代に始まった大谷石採掘は、最盛期に年間 89 万トンを出荷する日本屈指の採石産業として発展し、地下に巨大な迷宮を産み出していった。</p> <p>大谷石の産地・宇都宮では、石を「ほる」文化、掘り出された石を変幻自在に使いこなす文化が連綿と受け継がれ、この地を訪れる人々を魅了する。</p>							
							
カネイリヤマ採石場跡地				大谷観音（大谷磨崖仏）			
							
大谷石を彫る職人		カトリック松が峰教会		旧篠原家住宅			
⑤ 担当者連絡先							
担当者氏名	宇都宮市教育委員会事務局文化課 課長 松本邦夫 宇都宮市経済部都市魅力創造課大谷振興室 室長 田代 丞						
TEL	(028) 632-2761		FAX	(028) 632-2765			
E-mail	u4607@city.utsunomiya.tochigi.jp						
住所	宇都宮市旭1丁目1番5号						

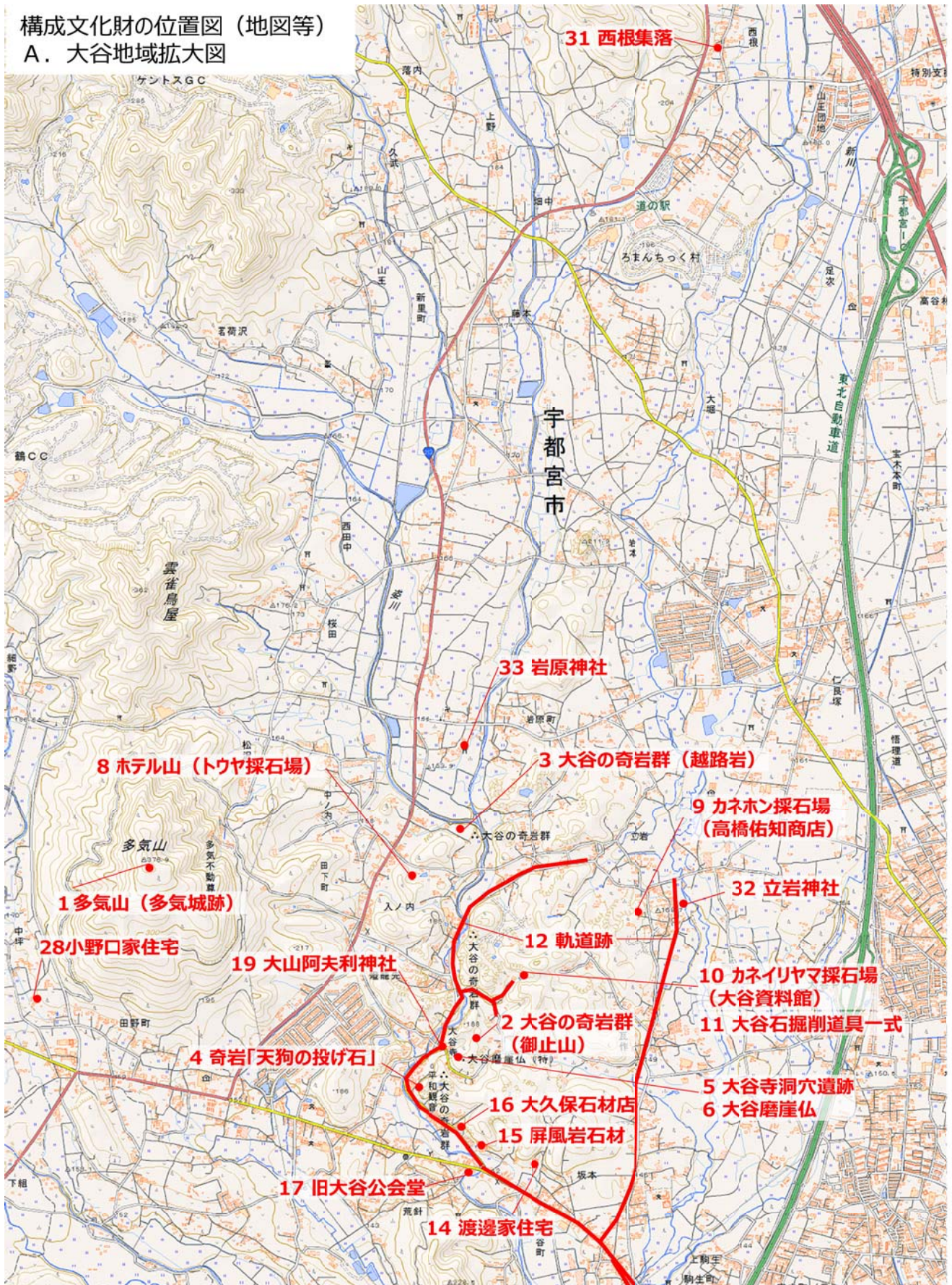
市・村の位置図（地図等）



構成文化財の位置図（図等）



構成文化財の位置図 (地図等)
A. 大谷地域拡大図



※ 12 軌道跡・・・主な路線を表記 18 山の神祭・・・大谷石の採石場毎に山の神祭が行われている。
35 無事カエル・・・市内の物産展等で販売。



構成文化財の位置図（地図等）

C. 芦沼集落・上田集落周辺拡大図



ストーリー

JR宇都宮駅から北西におよそ9km、市街地を抜け、多気山^{たげさん}と丘陵地が大きく見え始めると景色は一変し、鋭く切り立つ岩山と灰白色の岩肌に、蔦^{つた}が絡まる奇岩群^{きがんぐん}に囲まれる。ここは「大谷石」^{おおやいし}の産地、宇都宮市大谷地域。約1500万年前に起こった海底火山の噴火が、石の文化の源となる膨大な凝灰岩の地層を産み出した。



大谷の奇岩(御止山)



大谷観音(大谷磨崖仏)

この大量の凝灰岩の岩山に目を付けた人々は、この地でこの石と共に暮らしてきた。

古くは、縄文時代に岩山の洞穴を住居として利用し、古墳時代には横穴を掘って墓地とした。奈良・平安時代には、日本最古の磨崖仏^{まがいぶつ}とされる大谷観音を、自然の岩窟^{がんくつ}の壁面に彫りだし、信仰の場をつくりだした。大量の石に恵まれた宇都宮の人々は、長い時の流れの中で、この石に祈りや願いを「彫り」、そして石材として「掘って」きたのだ。

■石工が掘りだした巨大地下迷宮

石を「掘る」文化の証が、かつて大谷に約250ヶ所あったという採掘場とその跡地である。大谷の採掘場の多くは地下にあり、地表下100mに設けられた採掘場もある。坑道の先に天井と壁・柱で構成された巨大な空間が現れる。その天井高はおよそ30m、全てがひとつの石の塊で、壁面に採掘の痕跡が残る。

昭和30年代に機械が導入されるまで、採掘は手作業で行われ、わずか18×30×90cmの石材1本を切り出すために、石工は約4,000回も鶴嘴^{つるはし}を振ったという。この広さに到達するまでには気が遠くなる人の手がかかっているのだ。

冷気が張り詰める坑内には、天井を支えるために残した柱が立ち並び、行く先々を照らす明かりが重層的な影を生み、神秘的な情景を醸し出す。巨大な柱の先を曲がると、再び柱が立ち並ぶ光景が目前に広がり、次第に方向感覚が失われていく。ここは、採掘産業を支えた石工たちが、手作業で掘りだした巨大な地下迷宮なのである。

■大谷石産業の歴史

大谷石が本格的に建材として採掘されるのは江戸時代頃からである。当初は農閑期に露出する石を採掘していたが、明治以降は採掘産業として本格化し、人車軌道や鉄道等の輸送手段の発達や採掘の機械化により出荷量は飛躍的に増加した。大谷石は宇都宮のみならず東京や横浜に大量に出荷され、近代化する日本の都市づくりの礎となった。

かつての軌道沿いに造られた街道には、いまでも石材店が連なり、石工たちも集まった大谷石造りの旧公会堂もその一角にたたずむ。問屋は石山ごとに「山の神」を祀り、石山の安全や産業と地域の繁栄を祈願する。



公開されるカネイリヤマ採石場跡地



採掘の様子(1950年代後半～1960年代)



山の神大祭(大山阿夫利神社)

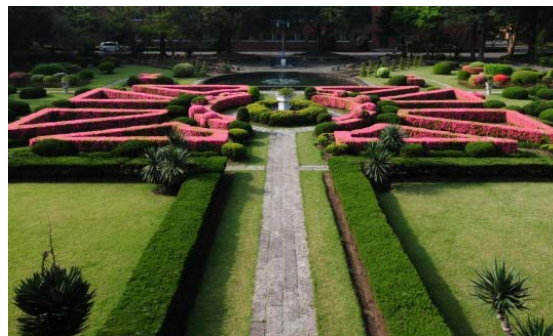
■掘り出した石で築いた都市文化

城下町・門前町として発展した宇都宮の市街地では、江戸時代以降、都市づくりに大谷石を使い続けてきた。都市のシンボルである^{ふたあらやま}二荒山神社の石垣をはじめ、教会や寺、公共建築、豪商の屋敷、民家の塀まで、用途・身分・宗教を問わず大谷石が使われた。

大谷石で外壁を覆うカトリック松が峰教会聖堂では、浮彫を施した大谷石タイルを複雑に組み合わせ、象徴的な丸いアーチや西洋中世の教会建築の意匠を実現した。対照的に、日本聖公会宇都宮聖ヨハネ教会聖堂では、同じ大谷石タイル張りでありながら、石の自然な表情を活かした素朴なたたずまいの敬虔な信仰空間をつくりだした。また、耐火性に優れ調湿・消臭効果を備える大谷石は、食品醸造に適し、味噌や酒、醤油などの商家の蔵に用いられた。江戸時代から続く老舗では、いまでも石蔵で宇都宮の味をつくりだしている。



宇都宮聖ヨハネ教会聖堂



宇都宮大学庭園(中央園路に大谷石が使われる)

建造物以外にも、人々の憩いの場となる庭園の花壇や園路、道路の敷石にも用いられた。やわらかな大谷石は様々な表現・活用を可能とし、多様なデザインを欲した都市づくりに重宝されたのである。

■農村の暮らしに溶け込む大谷石

農村部には、田園と大谷石が一体となった素朴な景観が広がっている。30棟以上の石蔵が集まる集落では、掘り跡が生々しい石壁や屋根瓦の代わりに大谷石をのせた石屋根も目に入る。かつて石工だった家では、蔵の窓周りに梅や松の彫刻細工を施し、思い思いに自分の蔵を飾り立て、玄関先では石造りのカエルが「無事カエル」主人を出迎える。大谷石は、一般的に神社の鳥居、野仏、供養塔、祠などに使われるが、宇都宮の農村部では、田んぼの土留、農業用ポンプ小屋、消防器具庫にも大谷石が使われる。田園風景の中を散策するたび、自由自在に姿を変えた大谷石との出会いがある。



大谷石建造物の街並み(芦沼集落)



大谷石造の祠(岩原神社)

た家では、蔵の窓周りに梅や松の彫刻細工を施し、思い思いに自分の蔵を飾り立て、玄関先では石造りのカエルが「無事カエル」主人を出迎える。大谷石は、一般的に神社の鳥居、野仏、供養塔、祠などに使われるが、宇都宮の農村部では、田んぼの土留、農業用ポンプ小屋、消防器具庫にも大谷石が使われる。田園風景の中を散策するたび、自由自在に姿を変えた大谷石との出会いがある。

■凹が拡がり、凸が生み出される宇都宮

宇都宮では、大谷石を彫って掘ってほり続け、地産地消の資源として変幻自在に使いこなす文化を育んできた。石との付き合い方は時代とともに変化を続ける。地下採掘場跡地は、採掘場内探検の舞台となり、市内に9,000棟ある大谷石建造物は、カフェやギャラリー等への転用が進む。現在も地場産業として大谷石採掘は続き、地下迷宮は拡がり続ける。

地下の巨大な凹が大きくなればなるほど、石のまち宇都宮の魅力が凸出していく。これからも宇都宮の人々は、大谷石と共に暮らしていく。

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	多気山 (多気城跡) <small>たげさん</small>	未指定	山裾で大谷下部層の露頭が観察できるこの山は、大谷石の産地の西側に位置し、この地域を城山地区と呼ぶのは、宇都宮氏が一時この山を城として使用していたことに由来する。	
②	大谷の奇岩群(御止山) <small>きがんぐん おとめやま</small>	国名勝	姿川沿いに連続して露出する大谷石の高い崖は、松や葛などの植物の緑と岩肌の灰白色の織りなすコントラストが見る人を魅了する。	
③	大谷の奇岩群(越路岩) <small>こしじいわ</small>	国名勝	大谷の奇岩群の北端に位置する越路岩は、春先の水田に水をはった時期に、水面に「逆さ越路岩」を写し出し、幻想的な情景を楽しむことができる。	
④	奇岩「天狗の投げ石」 <small>てんぐ</small>	未指定	天狗が投げて乗せたという伝説が残っており、まるで本当に怪力を使って天狗が置いたように、絶妙なバランスで崖の上に乗る不思議な大谷石である。	
⑤	大谷寺洞穴遺跡 <small>おおやじどうけつ</small>	未指定	1965 (昭和 40) 年に大谷磨崖仏防災工事に伴い発掘調査が行われ、洞窟内より、縄文時代草創期の土器、石器や縄文時代の人骨が発見されている。	
⑥	大谷磨崖仏 <small>おおやまがいぶつ</small>	特別史跡・重要文化財	千手観音菩薩立像・釈迦三尊像・薬師三尊像・阿弥陀三尊像の 10 軀が、岩壁面に彫られ、その表面に粘土を着せた、石心塑造の珍しいものである。	
⑦	長岡百穴古墳 <small>ながおかひやくあな</small>	県指定	長岡百穴古墳は、大谷層上層に相当する長岡層に掘り込まれた 52 基からなる古墳時代の横穴墓である。	
⑧	ホテル山 (トウヤ採石場)	未指定	F.L. ライト設計の旧帝国ホテルやカトリック松が峰教会に用いられた石材を切り出した採石場である。	
⑨	カネホン採石場 (高橋佑知商店)	未指定	現在稼働中の大谷石の露天採石場で、採石場に隣接して石材加工所や石材屑の堆積場、山主の住居兼事務所があり、採掘業に一連の流れを見ることができる。	
⑩	カネイリヤマ採石場跡地 (大谷資料館)	未指定	大谷資料館の地下採掘場跡は、1919 (大正 8) 年から大谷石を掘り出してできた約 2 万㎡の巨大な地下空間で、現在は資料館として展示公開されている。Cool Japan Award2017 を受賞。	

⑪	大谷石掘削道具一式	未指定	大谷資料館には、大谷石掘削の際に使用されたツルハシやハンマーなどの道具が展示されている。	
⑫	きどうあと 軌道跡	未指定	大谷石輸送のため、明治 29 年に宇都宮軌道会社が創設され、その後大正 4 年に軽便鉄道が敷設され貨物輸送が強化された。廃線後は、一部が歩道として整備され散策することができる。	
⑬	東武鉄道南宇都宮駅舎	未指定	大谷石を用いた駅舎で、1932 年の開業当時の原形をとどめている。外壁の石張りは、腰壁より下が横方向、上部が縦方向という珍しいものである。	
⑭	渡邊家住宅	市認定	渡邊家の屋敷内には、主屋、大谷石造りの石蔵 2 棟、表門、納屋があり、かつて名主を務めた民家の屋敷構えを今に残す。西石蔵内に記される墨書から、1769 (明和 6) 年以前のもものと推測される。	
⑮	びょうぶいわ 屏風岩石材	県指定	屏風岩石材の大谷石造りの石蔵は、西蔵が明治 41 年の竣工、東蔵が明治 45 年の上棟で、居住用の西蔵(座敷蔵)は本格的な洋風意匠を採用した曲線や繊細な装飾を用い、倉庫(穀蔵)として建設された東蔵は、硬く力強い表現が目立つ。	
⑯	大久保石材店	未指定	自然の大谷石を刳り貫いて、母屋の離れとして屋敷の入り口に造られた部屋。大谷地区内でも唯一のもの。	
⑰	旧大谷公会堂	国登録文化財	大谷石造りの旧大谷公会堂は、大正末期から昭和初期にかけて旧城山村の公会堂として建築され、現在は市の倉庫となっている。正面の 4 本の付け柱が特徴的で、柱には幾何学的な文様が彫り込まれている。	
⑱	山の神祭り	未指定 (民俗)	大谷石の採石場は「ヤマ」とよばれ、採石場毎に山の神が祀られている。今でも、作業安全などを祈願するための山ノ神祭りが 1 月と 10 月に執り行われる。	
⑲	おおやまあふり 大山阿夫利神社	未指定	明治以降に地元石材採掘業者によって祀られた。主祭神は山の神として祀られる大山祇命で、大谷石採掘の際の安全を祈願して祀られた。例祭は年 1 回で、10 月に地元採掘業者により執り行われている。	
⑳	二荒山神社の石垣	未指定	江戸時代に神社の石垣を組む際に大谷石が使用され、現在もその石垣を見ることができる。	

②①	カトリック松が峰教会	国登録文化財	設計者のマックス・ヒンデルは故郷のグロスミュンスター大寺院を思いながら、この教会の設計を行った。我が国では、数少ない双塔を持ち、大谷石外壁にロマネスク様式の装飾が施されている。	
②②	宇都宮聖ヨハネ教会聖堂	市指定	1933(昭和8)年に竣工された教会堂で、尖りアーチやバッドレスが用いられたゴシック様式の教会で、大谷石を外壁全体に用いている。	
②③	宇都宮大学庭園	国登録文化財 (名勝地)	宇都宮大学の前身である宇都宮高等農林学校の開校に併せて作庭されたもので、フランス式庭園に倣った庭園で、園路や歌壇等到大谷石が使われている。	
②④	栃木県中央公園の旧商工会議所遺構	未指定	昭和3(1928)年に建てられた大谷石貼りの商工会議所は、ライトの影響も窺われる斬新な意匠で、昭和54(1979)年に解体され、一部が栃木県中央公園内に移築・復元されている。	
②⑤	星が丘の坂道	未指定	屋敷を囲む高い大谷石塀と丸みを帯びた大谷石が敷かれた坂道が約20mにわたり一体的に見ることができる。	
②⑥	旧篠原家住宅	国重要文化財・市指定	篠原家は、昭和戦前まで醤油醸造業・肥料商を営んでおり、宇都宮で有力な商家の一つで、主屋は1895(明治28)年に建てられ、このほかに大谷石造りの石蔵が3棟あり、そのうち、文庫蔵の1棟は1851(嘉永4)年の建築である。	
②⑦	上野本家住宅	市認定	上野本家は、菜種油を精油する商店として江戸時代後期に創業し、1833(天保4)年に日光街道沿いに移転した老舗である。現存する建物5棟の中に土蔵の外壁に大谷石を張り付けた「辰巳蔵」と大谷石積の「穀蔵」がある。	
②⑧	小野口家住宅	国登録文化財	小野口家は、江戸時代より名主を務めた旧家で「前の蔵」「裏の蔵」「旧酒蔵」「長屋門」「堆肥舎」「旧乾燥小屋」の大谷石造りの石蔵が6棟並び、典型的な豪農の屋敷構えを残している。	
②⑨	あしぬま 芦沼集落	未指定	芦沼集落は、18軒の集落で、道路の両脇に大谷造りの石蔵と石塀が一体化された独特な街並みを呈する。	
③⑩	うわだ 上田集落	未指定	上田集落は、40数軒の集落で、各戸2棟以上の大谷石造りの石蔵を有し、道路沿いの水路に沿って、大谷石塀が数百メートル続いている。	

③①	にしね 西根集落	未指定	西根集落は、現在、20 戸程度の民家が集まり、集落内を貫く道の両側には大谷石造りの民家が連なる。石造りは土蔵、納屋、石塀などのほか、主屋も石造りの家もある。	
③②	たていわ 立岩神社	未指定	元々は星宮神社と称され、1912(大正元)年に立岩神社に改称された。本殿の後ろに巨大な大谷石の露頭を見ることができる。	
③③	いわはら 岩原神社	未指定	本殿の後ろの巨大な大谷石の岩はご神体で「ダルマ岩」と呼ばれる奇岩である。鳥居や祠も大谷石で造られている。	
③④	さだつな きんつな 宇都宮貞綱・公綱の供養塔	未指定	正和 3 (1314) 年に宇都宮貞綱が開基した興禅寺の境内に、貞綱と息子の公綱の供養塔と伝えられる大谷石製の五輪塔がある。	
③⑤	無事カエル	未指定 (伝統工芸品)	大谷石を加工して作られたカエルを象った民芸品で、「無事にカエル」との意味が込められており、以前は大谷寺の門前で売られていた。	
③⑥	あおげん 青源味噌店	未指定	寛永 2 (1625) 年創業、江戸時代は米・雑穀問屋で、明治期より味噌の製造を専業として行うようになる。文化 2 (1805) 年と伝わる文庫蔵と 1906 (明治 39) 年の大谷石の味噌蔵は現在も使用されている。	
③⑦	ダイニング蔵 おしゃらく	未指定	昭和 13 (1938) 年に公益質屋の蔵として建てられ、現在は、まちなか活性化事業によりレストランとして使用されている。	
③⑧	南宇都宮石蔵倉庫群	未指定	昭和 28 (1953) 年に米の貯蔵庫として建てられ、内部が木造の洋風小屋組みと手掘りの大谷石のコントラストが見事で、現在は「カフェ」や「コミュニティースペース」等として使用されている。	

(※ 1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※ 2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例：国史跡、国重文(工芸品)、県史跡、県有形、市無形等)。

(※ 3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。

(※ 4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

構成文化財の写真一覧

①多気山



③大谷奇岩群（越路岩）



②大谷奇岩群（御止山）



④天狗の投げ石



⑤大谷寺洞穴 Ⅰ跡



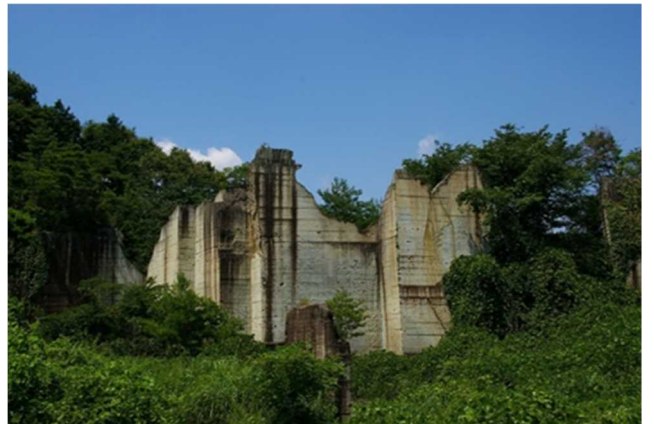
⑦大谷磨崖仏



⑥長岡百穴古墳



⑧ホテル山（トウヤ採石場）



⑨カネホン採石場（高橋佑知商店）



⑩カ、イリヤマ採石場跡地



⑬東武鉄道南宇都宮駅舎



⑪大、石掘削道具一式



⑭度邊家住宅



⑫軌道跡



⑮昇風岩石材



⑯大久保石材店



⑰旧大分公会堂



⑲大山阿夫利神社



⑱山神祭り



⑳二荒山神の石垣



㉑ カトリック松が峰教会



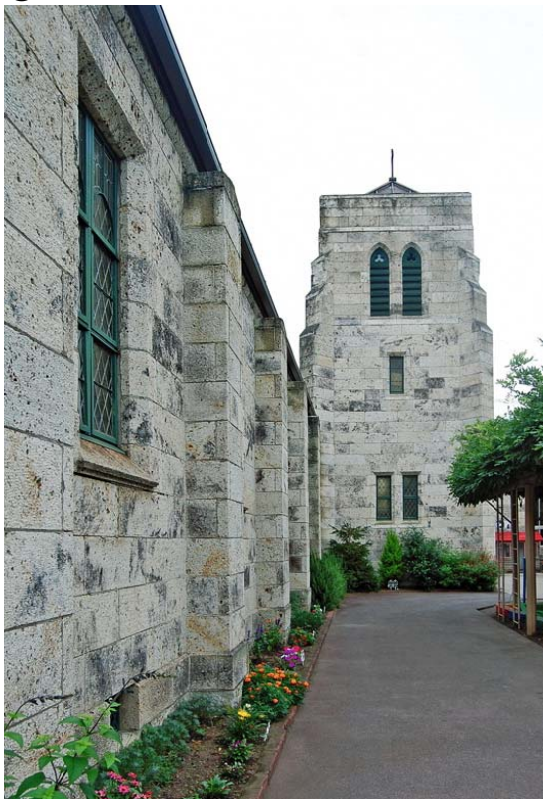
㉓ 宇都宮大学庭園



㉔ 栃木県中央公園の旧商工会議所遺構



㉒ 宇都宮聖ヨハネ教会聖堂



㉕ 星が丘の坂道



②⑥ 旧篠原家住宅



②⑨ 芦沼集落



②⑦ 上野本家住宅



③⑩ 上田集落



②⑧ 小野口家住宅



③⑪ 西根集落



③② 立岩神社



③③ 岩原神社



③④ 宇都宮貞綱・公綱の供養塔



③⑤ 無事ヲエル



③⑥ 青源味噌店



③⑦ ダイニング蔵 おしゃらく



③⑧ 南宇都宮石蔵倉庫群



日本遺産を通じた地域活性化計画

(1) 将来像（ビジョン）

宇都宮では、大谷石をほり、生み出した資源を使いこなして、まちや豊かな生活を築いてきた。大谷石がほられるほどに、まちは姿を変え、魅力が増していく。このような大谷石の文化を生み出すサイクルを末永く維持するとともに、生み出してきた資源を新たな視点を加えながら最大限活用することにより、「次に来るときは、どのように変化しているのか」が気になって、知らず知らずに宇都宮のファンになる、そんな期待感と変化に富んだ大谷石のまちを目指す。

◎地域の未来の姿

採掘産業の中心地・大谷地域では、まちの魅力を生み出す大谷石産業が技術革新を続けながら継続し、この産業自体が観光資源として人々を魅了する。立入できない採掘現場は、最新技術で仮想体験できる。地下採石場跡地は、体験観光の聖地として、地底湖探検ツアーなどの舞台となり、地下に溜まる冷熱エネルギーは、夏秋におけるいちごの栽培やワインやハムの熟成に活用され、地域の発展を支える。

地域内にできたビジターセンターでは、ヘルメット姿のインタープリターが、子供達や国内外からの来訪者に対し、地形から文化財・景観・伝統産業まで、多様な地域資源をやさしく解説し、現地探検に誘う。地区内で出会う住民は誇りを持ち暖かく来訪者を迎える。

掘り出された大谷石は、宇都宮の市街地のあちこちで店舗などの外壁内装に用いられ、この街にしかない温かみのある石の空間やまちなみを次々と生み出していく。市内に多く残る大谷石建造物は、酒造や染色などのモノづくりの現場で活躍するだけでなく、カフェや店舗への転用が進み、宇都宮のひと時を演出する。

◎地域の長期的構想への取組の考え方

宇都宮市では「第6次宇都宮市総合計画(平成30年3月策定)」において、周遊拠点の創出などの大谷石関連政策をリーディングプロジェクトに位置づけ、大谷石を活かした地域振興に全庁一丸となって取組む体制を整えている。

また、都市形成に係るマスタープランのなかで大谷地域を「観光拠点」と位置付け、拠点形成に向けた環境整備を進めていくほか、平成32年の東北自動車道(仮称)大谷スマートインターチェンジの供用を契機として、日光とつながる県内広域観光の拠点として機能強化を目指していく。

なお、大谷地域では、地域再生計画を策定し、28年度より地方創生推進交付金を活用して事業を推進している。

(2) 地域活性化のための取組の概要

◎魅力ある観光拠点の形成

①構成文化財等を周遊しやすい環境の整備を推進し、観光拠点を形成する。

大谷石文化に関する構成文化財は、大谷地域及び中心市街地に集積しており、その分布の特徴を踏まえ、大谷地域にビジターセンター機能を備えた周遊拠点を整備するとともに、地域の魅力を伝える有償ガイドの育成等に取り組み、来訪者が快適に周遊できる拠点を形成する。また、(仮称)大谷スマートICの整備など、アクセス性向上に取り組み利便性を高めることとあわせ、安心安全に周遊できる観光拠点を形成する。さらに、両地域において、多言語対応の周遊支援アプリの開発や案内板の設置など、インバウンドにも対応した周遊環境整備を進める。

②大谷地域の特徴的な地域資源の新たな活用の推進を図る。

採石場跡地などの大谷石産業関連資源や奇岩に囲まれた独特の景観など、大谷地域の特異な地域資源を新たな視点で活かし、地底湖クルーズや地下空間に溜まった冷熱エネルギーを活用した夏秋期のイチゴ栽培、独特の景観の中でのグランピング、アートとのコラボレーションなどの体験事業や飲食産業等を、民間事業者の参入を促しながら創造し、地域の魅力向上を図る。

◎大谷石文化の情報発信・周知啓発の推進

③VRなどを活用して、疑似体験ができる環境を整備する。

VRなどの最新の映像技術を活用し、立ち入ることのできない採掘現場や昔の採掘の様子、特別史跡大谷磨崖仏の彩色等を再現し、疑似体験ができる環境を整備する。

④大谷石文化を国内外に発信する。

本市に根付く大谷石文化を情報発信する際の統一的なコンセプトやデザイン等を検討するとともに、計画期間中に栃木県が開催地となるデスティネーションキャンペーン(平成30年度)・国民体育大会(平成34年度)や、東京オリンピック・パラリンピック(平成32年度)などの契機を活かし、効果的な手法を用いた国内外への情報発信を行う。

⑤市民を対象とした周知啓発事業を推進する。

大谷石は、宇都宮市民の生活に身近でありすぎるため、その価値に気づいていない市民も多いことから、大谷石文化を知るシンポジウムなどを開催し、大谷石文化の再認識を図り、郷土に対する誇りや愛着を醸成する。

◎大谷石文化を形成する(ほって・つかう)サイクルの維持発展

⑥大谷石文化を生み出す大谷石産業の維持発展を図る。

大谷石文化を形成する原動力となる「大谷石産業」について、採掘技術等の革新や伝統的な地場産業として維持継続していくとともに、見学環境の整備など観光資源としても発展を図っていく。

⑦大谷石を用いた景観形成・修景事業を推進し、宇都宮市独自の景観を形成する。

地域で掘り出された大谷石を建物の内外装に利活用する事業等の促進などにより、来訪者が大谷石文化を視覚的に体感することができる宇都宮市独自の空間・景観づくりに取り組む。

◎戦略的な地域資源の保存・保全の推進

⑧大谷地域の景観資源の保存・保全を推進する。

大谷地域は、岩山の自然景観や文化的景観など、特徴的な景観を有する地域であり、重要文化的景観への選定や景観形成重点地区への指定などに取り組み、魅力的な景観を保存・保全し、地域の魅力を末永く持続させていく。

⑨大谷石建造物の保全活用を促進する。

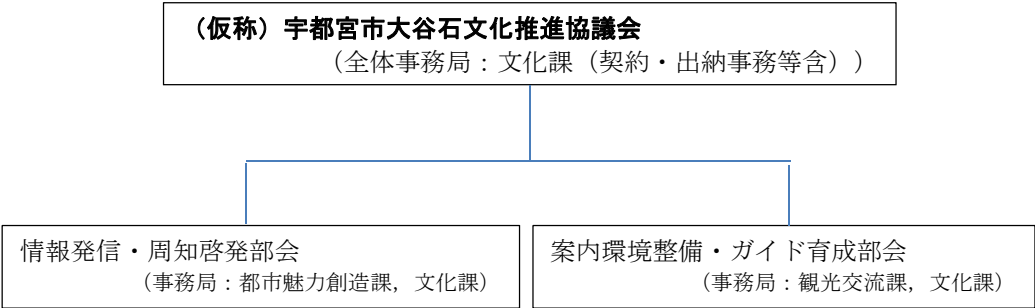
宇都宮市内に約9,000棟ある大谷石建造物について、所有者と利活用希望者を仲介するマッチング事業や利活用希望者への事業補助など、多様な活用を促進する事業を進め、本市の特徴となる貴重な建造物の保全を図る。

(3) 自立的・継続的な取組

- ・協議会の事業については、日本遺産サポーター企業や団体を募集し、金銭的支援や事業協力を広く呼びかけながら事業を実施していく。また、補助事業終了後の3年間は、市からの一定の支援のもとで、事業の維持継続・発展を目指す。さらに、計画期間中に予定している大谷周遊拠点機能（ビジターセンター含む）の形成について、PPPや指定管理など民間事業者による運営を視野に検討を進めており、当該施設の運営形態の検討の中で、協議会機能の一部の合流を検討する。
- ・地域資源の活用については、官民連携の上で新たな魅力の創出に取組み、民間主体の産業として成立できるよう、段階的な支援を検討する。
- ・有償ガイドについては、大谷周遊拠点広場（ビジターセンター含む）の中核機能として、ガイドとして収益を生む環境整備や仕組みを検討する。

(4) 実施体制

- ・協議会の名称
宇都宮市大谷石文化推進協議会
- ・構成団体
宇都宮市（文化課、観光交流課、都市魅力創造課大谷振興室、都市計画課、地域政策室）
宇都宮商工会議所、城山地区コミュニティ協議会、大谷石石材協同組合、宇都宮観光コンベンション協会、NPO法人宇都宮市まちづくり推進機構、宇都宮伝統文化連絡協議会、宇都宮市文化財ボランティア協議会、宇都宮市シティガイド協会、（公財）うつのみや文化創造財団
- ・アドバイザー（オブザーバー）
大谷石文化の観光活用や地域振興への活用については、既に地元事業者や法人が先駆的な取組を行っており、全国的に注目される成果を挙げている事業もある。このことから、本計画の推進に当たっては、以下の先駆的な事業者や法人をアドバイザーとし、助言を得ながら事業を推進していく。
株式会社ファーマーズ・フォレスト、有限会社ネイチャーブラネット、LLP（有限責任事業組合）チイキカチ計画、NPO法人大谷石研究会
- ・運営体制
協議会内に2つの部会を設置し、事業内容の検討・実施・進捗確認等を行う。
情報発信・周知啓発部会：事務局 都市魅力創造課・文化課
案内環境整備・ガイド育成部会：事務局 観光交流課、文化課
各部会事務局は、担当事業に係る委託業者の指導監督を担当する。



(5) 地域活性化計画における目標と期待される効果

定量的評価：別紙①のとおり

期待される効果：	特異な文化資源・地域資源を活かした多様な主体の活動や産業を活性化させ、「ここにしかない」魅力を再創生するとともに、戦略的に地域のブランド化を促進し、本市への来訪を促すことにより、持続可能な地域運営に不可欠な人材・資金を獲得するシステムが構築できる。 また、活性化の源となる文化資源に関する市民の関心が高まり、市民の幸福感や生活の質が向上し、文化財の保存活用が図られる。
----------	---

(6) 日本遺産魅力発信推進事業

別紙②のとおり

補助金額：	平成30年度：	41,832千円	平成31年度：	21,604千円	平成32年度：	10,160千円
-------	---------	----------	---------	----------	---------	----------

(7) その他事業

別紙③のとおり

（５）地域活性化計画における目標と期待される効果

設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化		
計画評価指標：	観光客入込み数（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	大谷地域の入込み客数		
目標値：	平成 28 年度	625,735 人 ⇒ 平成 35 年度	1,200,000 人
設定根拠：	大谷地域の最高入込み客数は昭和56年の1,169,915人で、最低は平成18年の124,154人である。近 年来訪者が増加傾向にあり、日本遺産の認定を契機として最盛期の1,200,000人を目指す。		
設定目標Ⅱ：	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化		
計画評価指標：	地域の文化に誇りを感じる住民の割合（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	文化資源の保存，継承，活用に満足している市民の割合		
目標値：	平成 29 年度	35 % ⇒ 平成 35 年度	50 %
設定根拠：	市民の半数以上が，満足・まあ満足と回答する状態を目指す。		
設定目標Ⅲ：	日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立		
計画評価指標：	日本遺産への協力団体数（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	日本遺産サポーターの登録団体数		
目標値：	平成 29 年度	0 団体 ⇒ 平成 35 年度	30 団体
設定根拠：	1年間で5団体ずつ増加すると想定。		
設定目標Ⅳ：	その他		
計画評価指標：	その他		（具体的な指標は次のとおり）
具体的な指標：	（具体的な指標を記載してください。）		
目標値：	平成 年度	⇒ 平成 年度	
設定根拠：			

※黄色で着色したセルの内容は変更しないでください。

※目標Ⅰ～Ⅳを複数設定する場合は、設定目標～設定根拠までをコピーして欄を増やしてください。

（6）日本遺産魅力発信推進事業

事業①：大谷地域の情報発信及び見学環境整備等に係る調査研究事業			
事業区分：	調査研究	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 30 年度
補助金額：	平成30年度：5,000千円	平成31年度：0千円	平成32年度：0千円
(積算)	調査研究委託 5,000千円 一式 @4,629,630×1.08		
事業概要：	・大谷石のストーリーや資源に親和性のあるターゲット層、その嗜好性を探る調査 ・上記の調査結果等を踏まえたモデルコースの策定 ・受入許容量を踏まえた受入環境整備の方向性等を検討		
評価指標区分：	調査対象文化財への観光客数	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	大谷地域への入込客数数		
目標値：	平成 28 年度 625,735 人	⇒	平成 35 年度 1,200,000 人
事業②：案内板・誘導標の設置			
事業区分：	公開活用のための整備	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
補助金額：	平成30年度：1,080千円	平成31年度：4,320千円	平成32年度：2,160千円
(積算)	H1300mm×W500mm 自立 1,080千円 5台×@200,000×1.08	H1300mm×W1000mm 自立 1,620千円 5台×@300,000×1.08 H1300mm×W500mm 自立 2,160千円 10台×@200,000×1.08 H500mm×W1000m 壁付 540千円 5台×@100,000×1.08	H1300mm×W500mm 自立 1,080千円 5台×@200,000×1.08 H500mm×W1000m 壁付 1,080千円 10台×@100,000×1.08
事業概要：	・モデルコースを中心に、案内板や散策者の周遊を支援する誘導板を設置（多言語対応） ・アプリやVR、散策マップ等と対応		
評価指標区分：	観光客の満足度	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	宇都宮市の来訪満足度		
目標値：	平成 28 年度 79.8 %	⇒	平成 35 年度 85.0 %
事業③：有償ガイド（インタープリター）育成			
事業区分：	人材育成	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
補助金額：	平成30年度：4,000千円	平成31年度：4,000千円	平成32年度：4,000千円
(積算)	ガイド用テキストブック 4,000千円 一式×@3,703,704×1.08	前期講座 4,000千円 一式×@3,703,704×1.08	後期講座 4,000千円 一式×@3,703,704×1.08
事業概要：	・大谷石文化や大谷地域の魅力を紹介するガイド用テキストの作成 ・テキストを基に、座学・実地の有償ガイド養成講座の実施（前期・後期で実施） ・前期は基礎編、後期は応用編とする。		
評価指標区分：	ガイド育成講座修了者の後年度活動者数	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	ガイド育成講座修了者の後年度活動者数		
目標値：	平成 29 年度 0 名	⇒	平成 33 年度 5 名
事業④：日本遺産の情報を発信し、周遊を促進する散策アプリの開発			
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 31 年度
補助金額：	平成30年度：0千円	平成31年度：5,940千円	平成32年度：0千円
(積算)		スマートフォンアプリ開発 5,940千円 一式×@5,500,000×1.08	
事業概要：	・大谷石文化のストーリーや構成文化財の紹介（多言語対応） ・構成文化財の周遊を支援する地図案内機能 ・案内板と連動した文化財解説付きAR動画・3Dビュー機能		
評価指標区分：	コンテンツダウンロード数（掲載HPや動画共有サイトでの再生回数等）	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	アプリのダウンロード数		
目標値：	平成 29 年度 0 ダウンロード	⇒	平成 35 年度 300,000 ダウンロード

事業⑤：採石場・地下空間・大谷磨崖仏のVRによる再現						
事業区分：	情報発信		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 30 年度		
補助金額：	平成30年度：	22,680千円	平成31年度：	0千円	平成32年度：	0千円
(積算)	大谷地域(地上)CG制作 3,240千円 一式 @3,000,000×1.08 地下空間(一部)レーザー計測 1,620千円 一式 @1,500,000×1.08 地下空間(一部)CG制作 10,260千円 一式 @9,500,000×1.08 地下空間(全体構造)CG 5,400千円 一式 @5,000,000×1.08 大谷磨崖仏彩色復元 1,080千円 一式 @1,000,000×1.08 企画、取材費 1,080千円 一式 @1,000,000×1.08					
事業概要：	・大谷地域全体を俯瞰するデジタル模型の作成(石材運搬に用いられた鉄道や軌道の一部を再現) ・地下採掘場の一部をVRで再現し、形成過程等を解説 ・表面が風化している大谷磨崖仏(特別史跡)についてVRで色彩等を再現					
評価指標区分：	コンテンツダウンロード数(掲載HPや動画共有サイトでの再生回数等)			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	掲載ホームページ閲覧数(PV数)					
目標値：	平成 29 年度	0 回	⇒	平成 35 年度	1,000,000 回	
事業⑥：日本遺産ホームページの作成						
事業区分：	情報発信		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 30 年度		
補助金額：	平成30年度：	2,160千円	平成31年度：	0千円	平成32年度：	0千円
(積算)	宣伝用写真 432千円 一式 @400,000×1.08 ホームページ作成 1,080千円 一式@1,000,000×1.08 古写真コンテンツ 648千円 一式 @600,000×1.08					
事業概要：	・宣伝用写真撮影(5日間)、ホームページ(10ページ)作成(設計・デザイン・コーディング) ・大谷石に係る古写真コンテンツ(かつての採掘の風景や採石場の過去と現在の比較等)					
評価指標区分：	ホームページ閲覧数(PV数)			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	ホームページ閲覧数(PV数)					
目標値：	平成 29 年度	0 回	⇒	平成 35 年度	1,000,000 回	
事業⑦：プロモーション動画の作成						
事業区分：	情報発信		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 30 年度		
補助金額：	平成30年度：	4,860千円	平成31年度：	0千円	平成32年度：	0千円
(積算)	プロモーションビデオ作成・テレビ放映 4,860千円 一式 @4,500,000×1.08					
事業概要：	・大谷石文化のストーリーと構成文化財を紹介するプロモーション動画の作成 ・テレビ放映(BS)					
評価指標区分：	コンテンツダウンロード数(掲載HPや動画共有サイトでの再生回数等)			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	掲載ホームページでの閲覧数					
目標値：	平成 29 年度	0 回	⇒	平成 35 年度	500,000 回	
事業⑧：パンフレットの作成						
事業区分：	情報発信		事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 31 年度		
補助金額：	平成30年度：	0千円	平成31年度：	2,700千円	平成32年度：	0千円
(積算)			パンフレット作成(企画・デザイン・取材・撮影・編集・マップ作製・印刷)2,700千円 一式×2,500,000×1.08			
事業概要：	・大谷石文化のストーリーと構成文化財を紹介するパンフレットの作成 ・周遊に活用できるマップを含む、日本語版10,000部を作成、A5・20P・マットコート4/6 90g					
評価指標区分：	補助事業終了後のパンフレット等コンテンツ増刷数(自主事業分)			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	パンフレット増刷数					
目標値：	平成 29 年度	0 回	⇒	平成 35 年度	3 回	

事業⑨：日本遺産PR事業（日本遺産を国内外に発信するプロモーション事業）						
事業区分：	情報発信		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 31 年度		
補助金額：	平成30年度：	432千円	平成31年度：	1,944千円	平成32年度：	0千円
(積算)	のぼり（固定台・ポール込） 432千円 100本×@4,000×1.08		ポスター作製 324千円 1,000部×@300×1.08 ポスター・広告物等デザイン制作 648千円 一式×@600,000×1.08 JR東北新幹線駅舎ポスター掲示 432千円 一式×@400,000×1.08 東北自動車道SA等ポスター掲示 540千円 一式×@500,000×1.08			
事業概要：	・フラグ・のぼり旗作製，高速道路サービスエリア・鉄道駅等広告掲載 ※2年目以降は，嗜好性調査を踏まえ，発信力のある媒体へ切り替える可能性がある。					
評価指標区分：	宿泊者数			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	宇都宮市の宿泊者数					
目標値：	平成 28 年度	1,560,000 人	⇒	平成 35 年度	1,630,000 人	
事業⑩：ファムツアーの実施						
事業区分：	普及啓発		事業期間：	平成 32 年度 ～ 平成 32 年度		
補助金額：	平成30年度：	0千円	平成31年度：	0千円	平成32年度：	4,000千円
(積算)					ファムツアーの実施 4,000千円 一式×@3,703,704×1.08	
事業概要：	・旅行者・ツイッター等のSNS利用者等を招いたファムツアーの実施 ※2年目以降のPR事業は嗜好性の調査結果を踏まえ，対象者を切り替える可能性がある。					
評価指標区分：	日本遺産の認知度			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	大谷石の文化が日本遺産へ認定されたことを知る市民の割合					
目標値：	平成 29 年度	0 %	⇒	平成 35 年度	80 %	
事業⑪：日本遺産認定記念イベントの開催						
事業区分：	普及啓発		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 30 年度		
補助金額：	平成30年度：	1,620千円	平成31年度：	0千円	平成32年度：	0千円
(積算)	記念式典等開催 1,620千円 一式 @1,500,000×1.08					
事業概要：	・大谷地域の奇岩群などの特異な景観に囲まれたオープンスペースでの記念式典の開催					
評価指標区分：	日本遺産の認知度			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	大谷石の文化が日本遺産へ認定されたことを知る市民の割合					
目標値：	平成 29 年度	0 %	⇒	平成 35 年度	80 %	
事業⑫：日本遺産シンポジウムの開催						
事業区分：	普及啓発		事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 31 年度		
補助金額：	平成30年度：	0千円	平成31年度：	2,700千円	平成32年度：	0千円
(積算)			記念式典等開催 2,700千円 一式 @2,500,000×1.08			
事業概要：	・国内の「石のまち」からパネラーを招き，地域ごとの石の文化の特徴や違いを知り，日本の石の文化について理解を深める。					
評価指標区分：	日本遺産の認知度			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	大谷石の文化が日本遺産へ認定されたことを知る市民の割合					
目標値：	平成 29 年度	0 %	⇒	平成 35 年度	80 %	

（７）その他事業

事業①：	大谷周遊拠点機能形成事業			
機関・団体：	文化庁以外の省庁	：	内閣府	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	旧大谷公会堂を移築し、イベントなどが行える多目的スペースとして活用するとともに、ビクターセンターを併設し、日本遺産や地域の魅力発信と周遊を促進する拠点機能を形成する。			
事業②：	大谷地域へのスマートＩＣの設置及び周辺道路整備			
機関・団体：	市町村	：	NEXCO東日本 宇都宮市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
事業概要：	観光拠点などを有する市域へのアクセス性向上のため、スマートＩＣを新設するとともに、併せて周辺道路を整備する。			
事業③：	シャトルバスの運行			
機関・団体：	市町村	：	宇都宮市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	大谷地域と周辺にある道の駅（ろまんちっく村）の間を期間限定（GW, 秋休み）で運行する。			
事業④：	大谷石採取場跡地の安全対策			
機関・団体：	市町村	：	宇都宮市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	国・県・大谷地域整備公社・大谷石材協同組合などの関係団体と連携し、採取場跡地の安全対策を推進する。			
事業⑤：	夏秋いちご栽培事業			
機関・団体：	民間団体	：	株式会社ファーマーズ・フォレスト、CDPフロンティア株式会社など	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	地下の冷熱エネルギーを活用して、夏期・秋期にいちごを栽培する事業を実施する。			
事業⑥：	地底湖クルーズなど、地域資源を活用した観光ツアーの実施			
機関・団体：	民間団体	：	有限責任事業組合チイキカチ計画	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	地下水が溜まる地下採掘場跡を活用して、ボートで探検する地底湖クルーズなど、独自の観光事業を実施する。			
事業⑦：	地下の冷熱エネルギーの活用促進事業			
機関・団体：	文化庁以外の省庁	：	内閣府	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	地下採掘場に賦存する冷熱エネルギーを活用した事業（夏秋いちご栽培・保冷倉庫等）への新規参入を支援を行う。			
事業⑧：	観光振興促進事業補助金			
機関・団体：	市町村	：	宇都宮市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	大谷地域に新たに新店する飲食店等の内装工事費用の一部を補助する。			
事業⑨：	みんなの大家（おおや）事業			
機関・団体：	文化庁以外の省庁	：	内閣府	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	大谷地域の観光拠点性の向上を図るため、大谷地域発の観光関連産業を誘発する拠点を地域内の空き家等を活用しながら整備する。			
事業⑩：	大谷地域における観光施設の立地誘導策			
機関・団体：	市町村	：	宇都宮市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	民間機能の立地を誘導し、観光拠点としての拠点性の向上を図るため、大谷地域における観光施設の立地基準を緩和する。			
事業⑪：	大谷地域ブランドの確立事業			
機関・団体：	文化庁以外の省庁	：	内閣府	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	民間資源も含めた大谷の様々な資源を総合的に発信するポータルサイトの構築や人材育成・商品開発などに取り組む。			

事業⑫：	デスティネーションキャンペーン（H30）と連携した情報発信			
機関・団体：	民間団体	： 宇都宮市DC推進委員会	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 30 年度
事業概要：	平成30年の栃木県で実施されるデスティネーションキャンペーンに合わせて、大谷地域及び大谷石文化に係る情報発信やイベントを実施する。			
事業⑬：	大谷石建築と大谷を巡るバスツアー			
機関・団体：	民間団体	： 宇都宮市 NPO法人大谷石研究会	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	NPO法人大谷石研究会との協働によりバスツアーを開催し、「大谷石の景観や建造物」などを巡ることで宇都宮の素晴らしさを知り、郷土愛の醸成を景観に対する意識を啓発する。			
事業⑭：	大谷石産業の再創生事業			
機関・団体：	市町村	： 宇都宮市	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	大谷石古材リサイクル等の新たな仕組みづくりに向けた研究や大谷石の採掘技術の革新にむけた研究を石材組合や大学・機械メーカー等と共同で実施する。			
事業⑮：	大谷石産業の観光活用推進事業			
機関・団体：	文化庁以外の省庁	： 内閣府	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	大谷石産業を観光資源としても活用するための、民間事業者による環境整備やプロモーションの支援を行う。			
事業⑯：	大谷石利用促進・付加価値向上事業			
機関・団体：	市町村	： 宇都宮市	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	大谷石産業振興及び独自の景観形成のため、事業所や住宅への大谷石利用を補助する制度を拡大していく。			
事業⑰：	大谷地域の「景観形成重点地区」の指定			
機関・団体：	市町村	： 宇都宮市	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 31 年度
事業概要：	大谷地域を景観計画に基づく「景観形成重点地区」へ指定する事業を推進し、良好な景観を形成する。			
事業⑱：	重要文化的景観選定に向けた取り組み			
機関・団体：	市町村	： 宇都宮市	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 31 年度
事業概要：	大谷地域の景観を重要文化的景観に選定するための資源調査等の申請準備に取り組む。			
事業⑲：	大谷石建造物のマッチング事業			
機関・団体：	民間団体	： NPO法人宇都宮市まちづくり推進機構	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 30 年度
事業概要：	大谷石建造物の所有者と活用希望者の仲介を行い、大谷石建造物の有効活用を推進する。			
事業⑳：	大谷石建造物保全活用事業			
機関・団体：	市町村	： 宇都宮市	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	石蔵などの大谷石建造物による本市らしい景観の形成に向けて、所有者を始めとした市民による保全・活用を促進する事業実施し、それを核とした魅力的な景観の保全・創出を図る。			
事業㉑：	大谷石建造物群の歴史的建造物群への指定に向けた取り組み			
機関・団体：	市町村	： 宇都宮市	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	市内に所在する大谷石建造物群の実態調査を進め、歴史的建造物群への指定（国・県・市）を検討する。			